

令和6年度 自己評価計画書

石川県立鹿西高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 学習習慣の確立と教科指導力の向上  ・学ぶ楽しさや充実感、達成感によって笑顔が得られる授業を展開し、生徒が自ら計画を立て、進んで学習に向かう力を育成する。  ・若手教員早期育成プログラム、中高連携（中能登中学校との学習交流会等）、他校への授業参観、大学入試問題研究の推進等により指導力の向上に努める。  ・GIGA 校内研修推進リーダーを中心とした校内研修を通じて、一人一台端末環境を生かした授業改善に取り組み、学びの質の向上を目指す。	① 研究授業・相互参観授業並びに協議会を計画的に行い、全教員の組織的な授業研究によって、思考力を高める授業を展開する。	教務課 全教員	主体的な学びを促す、より効果的な取り組みが求められる。研究授業・相互参観授業等も実施しながら、思考力・判断力・表現力につながる実践を行っている。	【努力指標】 思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を取り入れた授業を展開する。	【教員】 思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を取り入れた授業を毎回行っていると答える教員が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査
	② 生徒による授業評価結果を授業改善に生かし、学習意欲と学力の向上につなげる。	教務課 全教員	生徒の学習意欲と学力の向上は喫緊の課題である。授業評価の結果が低いわけではないが、自身の実践を客観的に振り返り授業改善に取り組む必要がある。	【成果指標】 生徒は授業に動機づけられ意欲的に学習に取り組んでいる。	【生徒】 授業が動機づけとなり意欲的に学習に取り組んでいると答える生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	Dの場合は改善策を検討	7月と12月に調査
	③ 家庭学習時間や出席状況を把握し、その調査結果を全教員が共有し、生徒個々への指導・助言・相談に携わる。	教務課 全教員	家庭学習時間に関する調査結果を全教員で共有しながら、生徒の現況に応じた学習指導をする必要がある。	【成果指標】 生徒が、平日の家庭学習時間において以下の目標を達成している。 前期 1年 90分 2年 110分 3年 130分 後期 1年 100分 2年 120分 3年 150分	【生徒】 目標家庭学習時間を達成した生徒が A 55%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	Dの場合は改善策を検討	定期的に平均学習時間を調査
	④ 校内研修推進リーダーを中心に、校内研修を通してICT活用指導力の向上を図る。	教務課 全教員	ICTを利用した授業はかなり実施されているが、さらに学習効果を高めるための取り組みを工夫する必要がある。	【満足度指標】 ICTを用いた授業が生徒から高く評価されている。	【生徒】 授業でICT機器を用い、学習効果が上がっていると感じる生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	Dの場合は改善策を検討	7月と12月に調査

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 豊かな人間性の育成、健康や体力の増進、たくましい人づくりの推進	① 鹿高祭、校内球技大会、校内合唱大会等の学校行事を通して生徒の自主性・協調性を育成する。	生徒課 全教員	生徒会活動は活発であるが、豊かな人間性や社会性を育むため、より主体的な活動に取り組むようにすることが必要である。	【満足度指標】 生徒が主体的に参加し、生徒会活動に満足している。	【生徒】学校行事を通して自主性、協調性が身についたと考えている生徒の割合は A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査
	② 問題を抱えている生徒に対して、生徒課・保健相談課・担任・学年主任が連携するとともに全教員で解決にあたる。悩みを抱える生徒の早期発見早期対策を行う。	生徒課 保健相談課 全教員	いじめ等の問題や心の問題を抱える生徒への支援については、ホーム担任が中心となっているが、より組織的で早期の対応が求められる。	【成果指標】 生徒が意欲的に登校できるように組織的な支援を行っている。	【教員】各課・学年と連携がとれて、問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれたと答える教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査
	・生徒会活動や学校行事、部活動、ボランティア活動を通して、豊かな人間性や社会性を育む。  ・事実や結果を真正面から受け止め、前向き、ポジティブな思考を持ちながら前へ進むことができる生徒を育てる。						

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 キャリア教育の推進と進路指導体制の確立 ・地域と連携した総合的な探究の時間等を通して、課題を発見し解決していくための資質・能力を向上させる。 ・教職員間の連携・協力を密にし、指導方法や指導体制を工夫して、3年間を見通した進路指導体制を構築する。	① 「総合的な探究の時間」等の活動を通して、ふるさとや将来について考え、主体的な進路の選択能力を養う。	全教員 教務課	地元の方々との協働により、取組の成果が表れている。	【成果指標】 取組を主体的な進路の選択能力の育成に結び付ける。	【生徒】取組によってふるさとや将来について考えられたと答える生徒の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査
	② 定期的な進路情報の提供に努め、大学見学会、進路希望別説明会、保護者懇談会、コース選択説明会、卒業生と語る会等進路ガイダンスを充実させる。	進路指導 課 担任	進路意識が希薄で目標設定が遅れがちで、進路実現のための準備が遅れてしまい、学力養成が十分できない生徒が多い。	【努力指標】 生徒の意欲を引き出す進路ガイダンスを実施する。	【教員（担任+進路指導課）】 生徒の進路実現に向けた意欲が高まるような進路ガイダンスを行っているかと答える教員の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 ※進路ガイダンスには、個人面談、奨学金説明会、大学見学会、各学年集会の進路説明会、コース選択説明会、卒業生と語る会等を含める。	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4 保護者や地域から信頼される学校づくりの推進 ・ 広報活動の充実を図り、本校の教育活動の理解が深まるように努める。 ・ 中学校の生徒や保護者に本校の教育活動の特色や魅力を伝え、本校への志願者の確保に努める。	① 各課・学年が連携して教育効果を高める情報を保護者に提供し、学校と保護者が一体となるように、学校行事等への参加を積極的に呼びかける。	総務課 全教員	PTA総会や教育懇談会の出席率が低い。生徒が活躍する保護者にとって有益な情報を提供できるような取り組みが必要である。	【成果指標】 保護者が学校の教育活動に関心を持ち、本校に足を運びたいと思っている。	【保護者】PTA総会、PTA教育懇談会、教育ウィーク等年間を通して生徒や学校の様子を見に来校した保護者の延べ人数が A 600人以上 B 550以上 C 500以上 D 500未満	CまたはDの場合は改善策を検討	11月に調査
	② ホームページの内容を充実させ、本校の教育活動の内容を保護者に理解してもらうとともに、学校配信メールによる情報提供の充実を図る。	総務課 教務課 進路指導課 全教員	より一層ホームページや学校配信メールによる情報発信の充実が必要がある。	【満足度指標】 ホームページや通信文書を見る保護者が多くなり教育活動への理解が深まる。	【保護者】ホームページや学校からの通信文書により、教育活動が分かりやすいと感じている保護者の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査
	③ 教員が業務効率化を進めながら、教育効果を高めるために組織的な改革に取り組む。	全教職員	業務の平準化に加え、行事や業務の見直し等、業務の効率化に向けての対応はまだ道半ばである。効率的でより効果的な業務が求められる。	【成果指標】 学校が組織的に業務効率改善に取り組むとともに、教員も業務効率化意識が高まっている。	【教員】学校が組織的に業務効率化を進めていることにより、業務効率化が進んでいると実感している教員の割合が A 75%以上 B 65%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月と12月に調査